

“ホープツーリズム”で福島の今を伝えたい。

恐れていることがある。

福島市の郊外にある花見山公園は、地元の花弁農家が戦争の悲惨を味わった人を慰めたいと無料開放したのが始まりだ。写真家の故秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と紹介して全国的に知られるようになった。「百花繚乱」の春は交通規制が行われるほどにぎわったが、外国人観光客は目立つほどではない。SNSなどで急に知名度が増したら、地元民は観光客に圧倒されて肩身の狭い思いをするかもしれない。

恐れていることがある。

花見山から西に望む吾妻山の雪形「雪うさぎ」に外国人観光客が目を留めて、福島の山の魅力に気付いたら、登山道は数珠つなぎにならないか。吾妻も、それに連なる安達太良も四季を通じて他の高山に負けない魅力があるにもかかわらず、新幹線や高速道路でアクセスがいいのが心配だ。楽しむことに貪欲な外国人観光客はさらに会津の奥まで足を運ぶかもしれない。その時、疑問に思うはずだ。「なぜ福島にはこんなに、たくさん温泉があるのか」と。

恐れていることがある。

個人の好みの問題と言われそうだが、温泉には日本酒がつきものと断言してしまおう。福島県の日本酒は、全国新酒鑑評会で5年連続の金賞受賞数日本一を達成し、人気も増している。一部は手に入りにくい状況でもある中、海外からも「福島のを！」と求められたら、品薄感はもっと高まる。さらに、果物も、ラーメンも、そばも、魚も格別と気付かれてしまったら…。

本当に恐れていることもある。

7年がたっても県外や国外には、福島県原発事故被災地には人が住んでいないと誤解している人がまだいるかもしれない。影の部分はある。それでも避難区域の解除やインフラの整備は進み、人が営みを取り戻すための懸命の努力が続けられている。そして、光と影の両方を見たいと、足を運ぶ人がいる。福島県は「ホープツーリズム」を提唱する。県民は多くの人に確かな「希望」が伝わることを願っているのだ。

福島民報社地域交流局長
佐久間 順



写真家の故秋山庄太郎氏に「福島に桃源郷あり」と紹介された花見山公園。春には桜、レンギョウ、モクレンなどが咲き誇る。